

7、地方情勢報告

一、北九州地方情勢報告 野 澤 四 郎 説明

組織状況、一昨年の九州地方選挙は、非常時選挙をハネ  
飛ばし各地に小作料ゲン免闘争が展開され、新支部がソ  
クソク精放された。即ち小笠原豊彦大名と林田縣會議長  
を對照とする山川郡の三支部や、藤佐指導部の放棄逃せ  
るあとの樂上郡の三支部及び京都節丸の第二支部等が  
全員参加して來たし筑豊炭田地方特殊の小作争議の傾向  
から鞍手郡の二支部、今夏に入りて嘉穂郡の支部が確立  
した。従来は本部常任の手不足からなるべく新組織は差  
し控えてゐたが、浸浴地主政勢に對抗するたため、椿市  
延永四村では小作人の方から積極的に加入を申込んで來  
るの狀態である。今年に筑後川沿岸、遠賀川沿岸に積極

的に進出の方針である

争議状況、一の代表的大争議は豊前郡に於て今川ダム工  
事反對争議であり、筑後郡に於ては筑後川味坂支部の集  
團地主對集團小作人の土地返還闘争である。

兩者とも一ヶ年近くの間断であり目下係争中であるが團  
結の力を以て必勝の信念の下に闘いつつある。

其の他三百數十件の小作料ゲン免闘争はそれぞれ有利に  
解決した。

政治状況、一町村會改選にあつては各支部それぞれ  
力に應じて一々乃至三名の候補者を立てたが落選地區は  
ごく少く殆んど各支部一名又は三名の議員を當選させ之  
等の各代表はブルジョア政黨より獨占される町村會  
政治の中にバックダンの存在をつづけてゐる。